

## 松戸ゆかりの画家、板倉鼎・須美子の作品と書簡

松戸ゆかりのエコール・ド・パリの画家、板倉鼎・須美子夫妻の短い生涯と作品、パリから松戸の家族に送った書簡などをご紹介します。

- 1 はじめに
- 2 生い立ちから結婚まで
- 3 留学と夭折 —『板倉鼎・須美子書簡集』より—
- 4 おわりに

### 板倉 鼎(いたくら・かなえ)

1901 年埼玉県に生まれる。小学生のときに松戸に転居。千葉県立千葉中学校で堀江正章に油彩画を学ぶ。東京美術学校西洋画科で岡田三郎助、田辺至に学び、在学中より帝展入選。1924 年同校卒業、翌年昇(のぼり)須美子と結婚。1926 年ハワイ経由で渡仏。サロン・ドートンヌ、サロン・ナショナル入選。サロン・デザンデパンダン、仏蘭西日本美術家協会展出品。1929 年急病によりパリで客死(享年 28)。



### 板倉 須美子(いたくら・すみこ)

1908 年東京に生まれる。父はロシア文学者・昇曙夢(のぼり・しよむ)。1921 年文化学院創設とともに入学、25 年中学部卒業。同年板倉鼎と結婚し、翌年ハワイ経由で渡仏。1927 年パリで油彩画を始める。サロン・ドートンヌ入選。仏蘭西日本美術家協会展出品。鼎の急逝後 1929 年帰国。有島生馬に学ぶ。美術団体「新油絵」の結成に参加。1934 年病没(享年 25)。

